

## 04'バリレポート

日時 平成16年6月16日～7月14日(28泊29日但し1泊は帰途機内)  
宿泊先 アリッツ・ビーチ・バンガロウ・サヌール。プラメスティ(ウブドのゲストハウス)に1泊

同伴 2人

費用 航空券 69,000円(関空使用料は別途)/1人  
HIS手配

1ヶ月有効、帰途1回のみ変更可  
ガル-ダインドネシア航空

宿泊料 アリッツ 60,000円/室/月、朝食込み  
(但し3,500円/室/日)

プラメステイ 800円/室/日、朝食込み

総費用概算 330,000円(二人分)

変化 昨年と比べ為替の相場がルピア(rp)安になっているので有利であった。1万rp=120円

(昨年10,000円=rp670,000 今年は平均してrp830,000) 物価は昨年と同じ。

アリッツ・クタを経営していたチブタ氏とまさみさん夫妻が、サヌールに来て大改装をしているので、クタでの日本人客がサヌールにきて日本人が大変多くなって賑やかになった。東京組も多くなり行動を共にする機会が多かった。昨年の日本人客は我々のみだった。大改装をした部屋は壁等も大変綺麗になり、キッチン付きもありテレビ、電話も付いている。但し値段は2割増し(4,200円/室/日、72,000円/室/月 朝食込み)になっている。

インドネシアで今年からビザが必要になり1ヶ月以内の滞在で一人25ドルを到着空港で支払うことになった。長期だと出国地でビザを取得すること。またロングステイヤー等に有利なインビテーションビザ(招待ビザ)も検討されているとのこと(まさみさん談)。

目的 蒸暑く熱帯夜の日本を避け、朝晩涼しいバリにてゆっくりして読書三昧に耽る

LSC大阪の神原夫妻及び林夫妻と観光等行動を共にする。

LSC東京の岡田氏等と情報交換をする。

ヌガラで本場の竹のガムラン「ジェゴグ」を観賞する。

北部の観光をする、ロビーナビーチ、プラタン湖など。

結論 前半は観光、後半はゆっくり読書ができた。

ジェゴグは迫力があり大変素晴らしかった。

来年も必ず来るので、為替と預金利息を勘案し現地の銀行に普通預金をした。但し来年の相場はどうか？また預金といっても現地通貨で1,100万rp(約13万円)。普通預金 金利 年5% 定期預金 6%

その他 格安航空券を検討した(1ヶ月滞在、復路変更可能)。エバー航空(台湾の航空会社で往復とも台北経由で乗継に相当の時間が必要)59,000円、復路変更可。シンガポール航空64,500円、往路限定シンガポールで1泊。JLのPEX料金(正規、早期割引料金)70,000円、往路直行、復路ジャカルタ経由、帰途変更不可。



チブタ氏の親類の結婚式に出席

ケイタイ持参のためインターネットは隔日で約 1 回 10,000rp(400rp/分)。

洗濯はホテルで隔日に出し一回約 7,000rp

我々ロングステヤーの買物の仕方は値交渉はゲームと思えばよく、2～3ヶ所の店を当たったり、スーパー、コンビニ、デパート等で値段を知っておく、あるいは現地の人が買っている値段を横で見えておく、そして値交渉をする、外人と見れば必ず最初は5～10倍くらいを吹っかけてくる、余り欲しそうな顔をせず幾らにしてくれとは言わない、言ってその値段になれば購入するのがルールだ、日本の値段は？或は日本で買えば幾ら？とは考えないこと、あくまでも現地での価格があるのだ、エクスカッションやアクティビティーの値段も同じで最初のところで決めず2～3ヶ所当たって高いなあと言いながら相場を知ることだ。高い値で買ってやるのもいいかも知れないが、日本人とみれば馬鹿にされたり全体の物価を上げてしまうおそれがある。短期の旅行者はその暇がないので欲しいと思ったらその場で買うしかない。また一般的に釣銭の1000rp未満はくれないか飴玉だ。

#### 6月16日(水)

7:00 発の新快速で三宮に、7:35 発のリムジンバスにて関空へ

11:00 発のガルダにてバリへ、神原夫妻と席は前後する

16:45 バリ着 **アリッツホテル**の迎えあり。先着の林さん夫妻と挨拶。

ルピアが1万円=87万rpになっているのに驚く。

初めての海外専用のケイタイで敬子に連絡。返事はケイタイをオフにしていたためかかっていた、当然か。初めてなので解からない。神原さんとも連絡を取り合うことになっていたが、現地での電話の扱いがわからず、神原さんに大きな迷惑をかけた。夕食はホテルのまさみさん夫婦に我々夫婦と林さん夫婦が招待される。

#### 6月17日(木)

ホテルにて休息。

昼食はホテルにて、夕食は林夫妻と**サヌールビーチマーケット**にて全員分で191,000rp。

#### 6月18日(金)

林夫妻、神原夫妻我々の6人でキンタマーニーツアーにゆく。車代3,000円/車

バツール湖は見晴らしも抜群で涼しかった。バツール山のふもとの**ウルン・ダヌ寺院**、バリの最高峰アグン山の麓にありバリ・ヒンズー教の総本山で大小30もの寺院が集まる複合寺院である**ブサキ寺院**を見学。去年は**ウルン・ダヌ寺院**には行ってなかったのでも是非行きたかった所だが物売りが多くて閉口した。この**ウルン・ダヌ寺院**はバツール湖畔にあったが1917年と1926年の噴火により火山灰の下に埋もれてしまったので翌年より再建されおり、285のメル(塔)が建てられる予定だがまだ完成していない。



費用一家族180,000rp(除く車代)、帰途の果物代、チップ30,000rpを含む

帰途、210日ごとに行われる寺院の創立のお祭りであるオダランが村人200人ばかりで催されて

いたので見学をさせてもらった。パロンドダンスを踊っていたので写真を撮ったりしていたが、儀式のための服装をしていなかったためか、出るように言われたので仕方なくかえってきた。

6月19日(土)

ホテルにて休息。買物ビール2本、バリのヤシの花から作る少々甘口の地酒アラック(アルコール度数40)24,000rpで計46,500rp

夕食はホテルの海側の野外レストランにて東京組、林夫妻計10人で食事、80,000rp/一家族。

岡田英彦氏、高橋夫妻(奥さんが南京玉簾の師匠)、オーナー夫妻、林夫妻、私たち、それに東京組みのドクター徳永さん、元日本軍兵士としてインドネシアの石油採掘にたずさわったという新潟の永井さん、あと女性が4名で、岡田氏の楽しい話でもりあがった。

岡田氏は現在85歳、戦時の主計局の大尉でインドネシア語が堪能で話が上手。しかし、林さんにいわせると「まゆつばもの」らしい。私たちは素直に感心して聞いていたが、あとからきいたところによると岡田氏の話は90%が作り話とのこと。岡田氏の話術に感心するとともに、林さんのするどい観察力にも脱帽、

6月20日(日)



アートフェスティバル

午前デンパサールの**アートセンター**にてバリ芸術祭を見に行く。林夫妻、神原夫妻と一緒に。毎年この時期に約1ヶ月バリの芸術を各地からやって来て無料で披露しているとのことだ。今日は竹のガムラン「ジェゴグ」を見る。舞台の中央で30人近くのバリ日本人会の女性が竹の楽器でジェゴグを見事に演奏していた。バリ島西部のヌガラ「スアール アグン」楽団との競演でなかなか見応え聞き応えがあった。しかし、本場のヌガラでダイナミ

ックな演奏を聴きたいと神原夫妻とヌガラに行くことを約す。午後はアートフェスティバルのオープニングパレードを見学。13時からと聞いていたのでそれにあわせて出発地の**ププタン広場**(バリ人がオランダの侵略に抵抗して玉砕覚悟で行進したププタンの勇気をたたえる記念碑がある公園広場)へ行ってみるとなんと15時からとのこと。特等席に陣取って見学、バリの各地域から団体が各地の結婚式、オダラン(ウク暦に沿って210日ごとに行われる寺院の創業祭)の装束、美しく正装した女性が供え物を頭上において運ぶなど、どの地域の行列も整然として美しいものであった。

夕食ホテル海側のレストランにて岡田、井森、鈴木各氏と同席。井森氏もLSC会員でバリへのリピーター、鈴木さんは84歳の元気な女性で岡田さんの友達 60,000rp/2人

6月21日(月)

午前**メイヨール博物館**@750rp/人。昨年行けなかったホテルのすぐ横の博物館で、ベルギー人画家のメイヨールとバリダンサー夫妻が住んでいたアトリエで、建物は伝統的なバリ建築。また50年程前のバリ島では普通であったトップレスの女性達の写真も展示されている。

昼食は**ホリデイビラ**のホテルにてマンゴウジュース込みで32,000rp

午後 林夫妻とベモ(乗り合いタクシー)でサヌール商店街の**ハーデーズスーパー**へ出かける。ベモの料金を4人で一生懸命交渉して言い値3万rpのところを1万2000rpにする。しかしあと

で分かったことであるが、ベモの相場は一人 2000rp、4人乗ったので 8000rp で良かったわけである。また、フロントでバリタクシーを頼んでもらうとメーターを使って 7000rp でいける。このスーパーで土産にバリコーヒー 80,000rp(@4,000x20)、シャンプー 17,000rp を購入。夕食は「ペンジョール」にてバリダンス及びフロッグダンスの踊り付き、林氏のおごり。結婚式用ドレス 15,000 円。高い買物であるのが判明し他店を下見する必要があった。

#### 6月22日(火)

林氏と3人で昨年は行っていなかったバリ北部を見学。車代 250,000rp/車

イルカウォッチングと黒砂海岸で有名なシンガラジャの**ロビナビーチ**、このビーチは黒砂なので余り美しく感じないが透明度は高く南部と比較してのんびりとした雰囲気だ、ブラタン湖に浮かぶ水の女神デウイ・ダヌが祀られている美しい**ウルン・ダヌ・ブラタン寺院**、この寺院のまわりも美しい公園になっていて、多くの人々が遠足にきていた。バリ島で一番落差のある**ギギツの滝**を見学、この滝は道路から下の方へ降り



**ウルン・ダヌ・ブラタン寺院**

ていくのであるが、途中、カカオの木 バリコーヒーの木、香料になる木などがさりげなく生えている。ロビナビーチを通り越して少し山の中に入ると、ヤシ等熱帯雨林が茂る中に**バンジャール・テガ温泉**(乳白色)がある。3人で水着に着替えて温泉で泳いだ。日本人からすると少し清潔感に欠けるきらいもあるが、ゆっくり温泉気分を味わった。周囲の熱帯雨林の風景は抜群 @108,000rp/人(除く車代)

#### 6月23日(水)

ウブドのバンガロー「**チュンパカ**」へ。このバンガローはバリに魅せられ50歳で早期退職した日本人男性の桜井,本間両氏が建設したものである。去年の8月オープン、ウブドの街から車で20分、まわりがライステラスに囲まれ、緑のなかの静かで落ち着いた環境の中にあり、広い敷地のなかに3棟の調理もできるきれいなバンガローや工夫をこらしたプールもある。オーナーの本間氏の話によると、団体ではなく、少人数でゆっくり滞在してここの生活を堪能して欲しいとのこと。1ヶ月単位で借りると60,000円と安い。この地でバンガローを建築した時の苦労話も聞いた。着工から完成まで大変な苦労があったようである。

昼食は**チュンパカ**でビール込み 38,000rp 2人分。車1台を借り4人で行く、途中有名な「象の洞窟」を意味する「**ゴアガジャ**」、パトブランのパチック工場を見る。車代2人分で 150,000rp。1台 450,000rp であった。少し高い。

#### 6月24日(木)

東京の大房氏他、林氏の5人で船をチャーターして、となりの島**レンボガン島**にシュノーケリングに行く。全員分で船 100 万 rp、弁当 90,000rp、80人は乗れるという船で乗組員4人、ポイントを3ヶ所行く、どのポイントも珊瑚、魚が多くとても綺麗で感動した。**レンボガン島**へ上がって島内を散策した。またこの島出身の一人の乗組員が自宅に連れて行ってきて、両親を紹介してくれ、家の中を見学させてくれた。島にはバナナ、ヤシ他果物の木がいっぱい。シュノーケル

を堪能して満足の1日であった。この島はダイビングにも適している。

6月25日(金)

ホテルでまさみさんからビーズのバッグを20%オフの270,000rpで購入。

午後オーナーのチプタ氏の車でテンパサールの**デアラマーケット**へ。パン、ドリアン等食料品を買う80,000rp、ドリアンは季節外れのせいか、そのため鮮度が落ちていたからか、味はもう一つだった。水着(含む帽子)198,000rpで購入。

6月26日(土)

車をチャーターして東京組と6人でバリ東部を見学。400,000rp/車、フロントで依頼、高い。

**クサンバの塩田**を見学しミネラルのいっぱい入った塩を購入、塩田の前の「**コウモリの洞窟**」**ゴアラワ**は前だけを写真に撮って終わり。あとで判ったことだが、この寺は火葬式のあと、必ずおまいりする大切なお寺であった。是非ゆっくり見学しておくべきであった。

**スマラブラ宮殿**別名クルタ・ゴザ宮殿と裁判所を見学。

「浮かぶ宮殿」とも言われ周りを堀で囲まれておりこの地方最後の王の宮殿だった。このクルンクンの王は「KING OF KINGS」と呼ばれバリで最高の格式を持つ王家であり、オランダが侵略した際、最後まで戦った王家である。ここ「浮かぶ宮殿」といわれる池の中にある宮殿は日本の占領時代、日本軍が使っていたそうである。ここにいたガイドさんが20分あったらこの宮殿について説明してあげると言ってくれたけれど、仲間が



クルンクン スマラブラ宮殿

先に行ってしまったので、残念ながら聞けなかった。今度行ったときは、ぜひ説明を聞きたい。裁判所の天井にはカマサン様式の代表的な絵画が描かれており、1942年までここで厳しい裁判が行われていたという。

昼食は**サヌール銀座**まで帰りレストランで、70,000rp/2人。初めて両替インチキの洗礼を受けたが看破して事なきをえた。クワバラクワバラ、余り率が良いのも気をつけなくては、二人で見ていたのだが手口はなかなか鮮やかなものだ。他の両替店で、1万円=86万rpは率が良かった。帰りにホテル近くの**ゲッコー月光**でバリでは珍しい和菓子アイスドラヤキを買う。

6月27日(日)

ホテルで熟成ニガリ他を日本人女性より購入、282,000rp

夕食はホテルから20分ほど歩いた、初めての屋台村でナシチャンプル、ビールを飲む24,000rp/二人は安い。少々不潔だが味は良いし主人のグシテイさん、奥さんのアユさんはすごく親密感がある。「指差し会話帳」、英語などで話して花が咲く。

6月28日(月)

午前チプタ氏の紹介で現地の銀行に預金をするべく打ち合わせ。チプタ氏の友人でインドネシアの国民銀行と言われている**ラクヤット銀行**の行員がわざわざホテルまできてくれた。チプタ氏もいい顔だし銀行員も集金出来て喜んでいるとのこと。為替が我々には大変有利で金利も高く、来

年も来る予定なので、チブタ氏や東京の連中とも話し合っただけ口座の開設をした。去年は1万円＝67万rpだったのが今年は選挙の関係か現在87万rpだ。但し選挙が終わればまた安定（我々には不利）するようだ。でも為替はどう動くか分からないので一つの賭けでもある。金利も普通預金で年5%、定期預金で6%なので出し入れ便利な普通預金に取りあえず200万rp（2万円両替と手持ちのルピアで）を預金した。パスポートとサインでOKだ。午後通帳が出来たので再度200万rpをJCBと三井住友BKよりATMで引出し預金した。但し引出すのに1回40万rpしか出せなくてかつ1回につき200円の手数料が掛かるとのことなので現金を持っていなくては不利だ。その後判明したのであるがBCA銀行のATMでは250万rpまで一回で出せた。なんでも勉強勉強！ただし勉強も金がかかるね。

夕食は東京の高橋夫妻の送別パーティーにチブタ氏より数名招待を受ける。美味しいインド洋のマグロの刺身、スープ、ポテトサラダ、野菜、サテー、コーヒー等。この席にチブタ氏の両親も出席される。せっかくの機会だから、両親に昔の話を聞く。日本軍占領時代の話でお母さんは例の「三浦 襄」も知っておられた。彼はお母さんの実家のすぐ近所にすんでいたそうである。日本の兵隊さんから教えてもらったという童謡「靴がなる」や「君が代」などを歌ってくれたり、学校で習った日本語学習のうた「あいうえお かきくけこ……」を節をつけて最後まで歌ってくれた。当時インドネシアには「黄色い肌をした民族が来てオランダ人を追い払ってくれる」という言い伝えがあったので日本軍を歓迎し、悪い印象は持っていなかったという。ただし「女癖が悪かった」と話された。

6月29日（火）

夜の屋台と同じ場所の朝市へ、バナナ、ヤシ砂糖など11,000rp。夕食は同じく屋台でナシゴレン、ジュース他で17,000rp。主人グシティ、奥さんアユ、主人が大変サービスする。

6月30日（水）

チブタ氏のまたいこの結婚式にまさみさんと出席。出席者、チブタ氏の両親、弟夫婦、まさみさんと娘のぴあちゃん、我々夫妻。ホテルのスタッフに正装を着せてもらう。場所はチブタ氏の本家でアリッツ家経営のビジネスホテル横の宮殿で一族が多数参加していた。バリでの冠婚葬祭は、盛大に行われるらしく今回の結婚式も60人以上の人たちが来て祝っていた。宮殿の入り口では30人ほどの男性がガムランを演奏していた。女性たちの正装はとても美しかった。日本のようにかしこまった式典はなく花嫁花婿は司祭とともにいろいろなお祈りをしていたが、その他の人々は特に式を見守るでもなく、それぞれの場所で談笑していた。結婚の儀式も色々あり今回は、何回かある儀式の一部だとのこと。我々部外者も自然な様子で受け入れてくれて、写真も自由に撮ってよいとのこと。遠慮なしに二人で撮りまくった。また花嫁花婿とも一緒に記念撮影をした。昼食はビュッフェの御馳走をいただき、引き出物のきれいな扇子もいただいた。この一族はテンパサルを治めていた王の一族で本家の長はいかにもそれらしく威厳があった。しかし話してみると気取らずユーモアのある人物で、写真を撮らせてもらおうと、「もっと美しい女性をとりなさい」と言っていた。行きも帰りもまさみさんの車に同乗させてもらう。

帰宅後疲れたので昼寝、夕食はホテルにてラーメン、とんかつ、ビール60,000rp。

夕刻散歩がてらに海岸を歩いていると砂浜で50人くらいの団体が2つ、ガムランの演奏で皆がお祈りをしている。見にゆくと火葬式のあとの、死者の遺灰を海に流す行事のようである。墓地で

火葬が行われその後、灰や骨はヤシの実の殻に入れられ高僧の祈りを受けてから海へと流し、これにより魂は清浄になり天界に昇ると考えられているそうである。葬式の日にも、適した日があり、たまたま今日がその日だったようだ。

#### 7月1日(木)

午前読書、昼食は部屋にてパン、マンゴーなど

午後海浜を散歩、潮が引いていたので沖の方まで歩いてゆく。沖には軍艦が沈没しており、そこには旗が閃いている、すぐ近くまで歩いていけるのでシュノーケルでその軍艦が見えるのではないかしら。チブタ氏に相談したら、絶対に行ったらダメ、その手前は相当深く落ち込んでおり大変危険だとのこと。船の出入り口にあたるのでその軍艦を引き揚げようと試みたが、どうしても引き揚げられないとのこと、神様が怒っているとのこと。神様が相手では本当に怖いので近づかないことにする。

夕食は屋台にてナシチャンプル、ビールで 24,000rp

#### 7月2日(金)

ウブドで神原夫妻と落合う。運転手イダ・バグス・デルガ氏 300,000rp,チップ 10,000rp。なおインドネシアではイスラム教が大多数だが、ここバリでは 9 割がバリ・ヒンドゥー教でカースト制の名残がある、このカースト制は 4 つの階級制からなり、最高位(ブラフマと呼ばれる)の僧侶階級の名前には前にイダ・バグス(女性にはイダ・アユ)が付くのでわかる、そのためこの人達はプライドも高い。ということでこの運転手は最高位の僧侶階級である。ちなみに次の階級の王族にはアグン、その次の商人にはグステイが付く、で最後が大多数の平民である。現在では法律により全員が平民になっているが、昔の名残で宗教行事における立場が違ったり、階級に応じて敬語を使い分けている。そのため店主が平民で使用人が僧侶階級であることも珍しくなく、この場合は主人が使用人に向かって最大級の敬語を使っている。日本と違ってお金だけが価値観ではなく、宗教や文化が生きているのである。なおバリ・ヒンドゥー教はインドのそれとは少し違い本来の 3 大神であるシヴァ、ヴィシュヌ、ブラフマの上にサンヒャン・ウイデイという最高神が存在しており、島に元々あった自然信仰との融合で生まれた神とされている。

今回の目的の一つ、日本軍属でインドネシアの独立に尽力したデンパサールの**三浦襄の墓**にお参りに行く。現地の人達が我々のまわりに集まってきて少々異常な雰囲気だったがデルガさんが対応してくれた。

ウブドでは先ず**ネカ美術館**に行く、立派な、沢山のバリ絵画がスタイル別に分けられ、また画家のルドルフ・ボネやアリー・スミットの作品もあり感激、一見の価値があったが、ガイドがうるさくついて来たのには閉口した。入場料 @20,000rp/人。

昼過ぎ神原氏の宿泊先**プリダラム**で落合う。日本人経営の近くのレストランで昼食、40,000rp/3人分。ジェゴグ見学等の打合せ後別れる。

ウブド郊外の「ベジェンの月」といわれる紀元前 3 世紀頃に造られた、青銅製では世界最大といわれる巨大な銅鼓で有名な**プナタラン・サシ寺院**を見学、お布施 10,000rp。その後 11 世紀から



三浦 襄の墓

14 世紀にかけて栄えたバリ初期の王国の出土品が展示されている **考古学博物館**を見学、石碑や土葬用の石製の棺が数多く展示されていた。お布施 5,000rp。

マーケットにて手提げカゴと山口氏の土産としてコースターを計 110,000rp で購入。

**ウブドの宮殿**ではこの地方最後の王の親族が 5 月に亡くなって、7 月 27 日に盛大に葬儀が行われるのでその準備に皆がおおわらわだった。帰途バンジョールで葬式用の沢山の御輿や牛の飾りものを見る。

7 月 3 日 (土)

神原夫妻がアリッツに移転 3 泊 4 日 (帰国日まで)。昼食は**ホリデイピラ**にて 20,000rp/2 人

夕方神原夫妻と**ウルワトゥ寺院**にてケチャを見る。

デルガ運転手 80,000rp/車。**ウルワトゥ寺院**の一帯は断崖絶壁の上にあり、風光明媚で夕焼けも素晴らしかった、猿が沢山いてデルガさんから何度もメガネ等なんでもとられるから注意するよう言われた。ある人が私たちの目の前でメガネをとられていた。ケチャダンス (モンキーダンスとも言う) は夕日を背景にかがり火の中で行われインドヒンズー教の叙事詩ラーマヤナ物語が演じられた。す



**ウルワトゥ寺院のケチャダンス**

ずしい風に吹かれて情緒あふれる催しであった。が、ケチャそのものは規模も小さく、まだ発展途上の音楽と踊りであったように思う。入山料@3,000rp、ケチャ@35,000rp/人。

その後ジンバランで日本人経営のシーフードレストラン **AYO** からの迎えの車にてレストランへ、ジンバランはシーフードレストランが大変多いところだ。海岸の砂の上で波の音を聞きながら、夜景と星と空港発着の飛行機を見ながらの送迎付きのおまかせ料理で@100,000rp/人はまあ良いか。このレストランの横の砂浜に漁から帰ったばかりの船で漁師一族が魚を網からはなしていた。鰹のような魚で勢い良く飛び跳ねていた。**AYO**の女性オーナーは他の店にはないアイデアと料理で勝負しようと意気込んでいるが、同様の店が多くなかなか経営は厳しいようである。

7 月 4 日 (日)

神原夫妻とヌガラヘジェゴグを觀賞に。運転手はアントニーさんの会社のヨノーさん。日本語もなかなか堪能で機知に富んでいて、打てば響く会話をされていて感心した。車代 4,000 円/車、ガソリン 25,000rp

途中**タマンアユン寺院**へ、この寺院は境内を取囲むように濠が巡らされ、さながら庭園寺院といった風情で、沢山の見事なメル (塔) も見応えがあった、入園料@3,000rp/人。次に夕日で美しいと有名な、またエマニュエル夫人の舞台になった**タナロット寺院**へ行く。ここは夕日だけでなく昼間でも海に浮かぶ、また怒涛に晒された寺院は見応えがあった。入園料@3,300rp/人。昼食はここで 55,000rp/家族。ヌガラの**スアール・アグン**のジェゴグ觀賞に行くも



場所が分からず四苦八苦し、観賞出来るのかと気が気でなかったが何とか無事到着。夕食込@31\$ (310,000rp)/人。客は日本人ばかり30人余り。子供ばかりで10人余りの演奏、各10数人の大人のグループが2つ、交互に演奏したり、3つのグループが大合奏したり、大迫力の演奏である。大きな竹のガムラン、その竹の楽器の下に入って聞くと大地の底から響いて魂を揺さぶる。その後ジェゴグを再興させたリーダーのスエントラ氏（奥さんは日本人の和子さん）の指導で観客も演奏させてもらう。一つのジェゴクには4つの音階が二組あり単純なつくりで比較的簡単である。リーダーの指示に従い必死で演奏する。この楽器の音色はとても心地よい。その後みんなで踊り、最後に日本に来て公演する予定の合奏とダンスを観て、予定時間を相当オーバーして終わり、24時前にホテルへ。



ヌガラジェゴグを再興したスエントラ氏

#### 7月5日（月）

昨日ヌガラへ行く途中長澤さんよりケイタイに電話があり、ウブドに来ているので我々に電話を掛けているが通じないとのこと、漸く話が出来今日ホテルへ来ることに、昼過ぎにプラマ社のバスでサヌールに到着、ホテルのプールサイドにて神原夫妻と5人で昼食、45,000rp/家族、夕食は同じくホテルのレストランにて115,000rp/家族。5人で話に花が咲いた。

#### 7月6日（火）

朝我々5人はまさみさん経営のバッグ製造の工場に行く車に同行し、工場見学をする、長澤さんは気に入ったバッグを2個購入、その後バリ島最大の市場といわれる**パサールパドン**に行き古代米やライム、ガドガドソースなどを買い、次に**マタハリデパート**の本屋で日本語・インドネシア語辞書を70,000rp、昼食はホテルにて42,000rp/家族、夕食は5人で屋台に行くも綺麗好きの神原さんの奥さんにはちょっときびしかったかも・・・27,000rp/家族。今夜神原さん夫妻帰国。

#### 7月7日（火）

昼食は長澤さんと部屋にてマンゴー、パンを食べる。昼から3人でベモをチャーターしてウブドへ、長澤さんが45,000rp/車で交渉、プラマ社のバスより有利なので5,000rpをチップとして渡すとベモの運転手は大喜びで踊っていた。

長澤さんの定宿**ブラメステイ**の新しい部屋に投宿。マーケットで女性用サンダル3人分を購入、60,000rp。王宮、神原夫妻の宿**ブリダラム**を見学、3泊以上であればクーラー付きの新しい部屋が150,000rp/日、クーラーがなくて扇風機だけの部屋は100,000rp/日になるとのこと。ビール2本を買って帰り、夕食は宿にてナシゴレンを**ブラメステイ**のオーナーが御馳走してくれる。**ブラメステイ**の新しい部屋はホットシャワーのみ、クーラーはないが涼しく、家族的で良い雰囲気だ。

#### 7月8日（水）

朝6時からウブドパサールの朝市に行きキュウリ、菓子を3,000rpで購入。朝食は宿でジャポー（ホットサンド）果物 コーヒーで結構美味しかった。

朝食後 3 人で徒歩で溪谷美を見に行き、ついでに**アントニオブランコ美術館**を見る。裸の絵画やエロチックなものも多く一風変わった美術館だ、@20,000rp/人。

昼食はパダン料理 30,000rp/2 人、長澤さんはギリメノへ、我々はプラマ社のバスでサヌールへ @15,000rp/人。**プラメステイ**は宿代 70,000rp/室と大変安く約 800 円、去年のレートなら 1,000 円。夕食は屋台にてバッソウ



プラメステイの朝食

7 月 9 日 (木)

殆ど読書。ヘアカラー 66,000rp。ホテルにリコンファームを依頼。

7 月 10 日 (金)

午前まさみさんの車に便乗して **マタハリデパート**へ、インドネシア語辞書 1 冊、インドネシア語の教科書 2 冊、インドネシア語に訳された漫画こぼちゃん 1 冊を計 129,500rp で購入。

7 月 11 日 (土)

殆ど読書。夕食は大房氏と日本料理店 **漁師** にて寿司、魚は大味な感じでもう一つだ、70,000rp/2 人。行きバリタクシー 8,200rp、帰りベモ 6,000rp 3 人分を大房氏が負担。

7 月 12 日 (日)

殆ど読書、夕食は屋台にてナシチャンプル。偶然隣同士になったニュージーランド人と意気投合、来年か再来年ニュージーランドに行くと話すと是非泊まりにおいでと住所を教えてくれる。色々な人と出会えて気軽におしゃべり出来るのも屋台の魅力だ。15,000rp/2 人。土産用アラックを 55,000rp で購入。



屋台でニュージーランド人の親子とおしゃべり

7 月 13 日 (月)

ホテルの車にて**ラクヤット銀行**に 700 万 rp を預金、合計 1,100 万 rp になる。来年どのくらい増えているか楽しみだ。いや来年さらにレートが不利になっていて結局損をすることになるか……。夕食はホテルにて。ホテルの車にて空港へ。24 時過ぎに搭乗、14 日 8 時関空着。

平成 16 年 8 月 6 日 高橋 琢也  
恭子